

ら しもんた

議会だより

第73号

2016.
5.1

発行：群馬県下仁田町議会



**あなたと議会を結ぶ
確かな情報と信頼**

主な 内容

平成28年度予算	2
一般質問	3～6
審議結果	7～9
委員会報告等	10～13
シリーズ消防団	14

「ラッピングトラック」

災害時の物資の輸送、観光イベント等に
活用される2トントラック（698万円）

平成 28 年度予算

一般会計は 54 億 4,500 万円 前年度比 5 億 5,200 万円、11.28%増

■主要事業

(単位：万円)	
○子育て応援事業	予算額
出産祝金（出産時に第1子5万円、第2子10万円、第3子以降20万円支給）	270
保育所保育料（第2子以降無料）	993
入学祝金（小学校、中学校入学時に祝金3万円と商品券2万円分を支給）	300
福祉医療費助成（障害者、母子家庭、父子家庭および中学校3年生までの子供の医療費の助成）	6,366
不妊・不育治療費助成（治療費の2分の1助成（100万円限度））	100
ふるさと納税促進事業（ふるさと納税の促進と町の認知度アップ）	5,308
定住促進奨励金（町内新築住宅取得者へ25万円支給）	325
下仁田町ぐんまの木で家づくり支援事業	170
猟友会への駆除委託、捕獲檻およびワナ等の資材購入、猿追払い員雇用	1,341
「道の駅しもにた」再整備事業（第1期工事 販売施設等建設工事） （第2期工事 設計等委託（交差点改良、駐車場、防災施設等））	1億4,813
町道改良（過疎道路 2路線）（一般町道 3路線）	1億2,982
伊勢山下第2町営住宅建設工事	1億816
共同調理場建設工事（平成29年3月完成予定）	5億5,639
荒船風穴保存管理および整備・調査	3,288
ジオパーク施設の整備・ジオパーク関東大会開催等	2,046

(万円未満切り捨て)

第1回 定例会の概要

▼開会日・一般質問
(3月7日)

会期を17日までとする決定を行い、3名の議員が、町政のさまざまな課題について質問を行いました。

▼議案の上程(9日)

選挙管理委員および補充員の選挙を実施。人事案件・条例等の改正案など28件を上程し、平成28年度当初予算および平成27年度補正予算を予算決算特別委員会に付託しました。

▼予算決算特別委員会(10日)

付託された案件の審査を行いました。

▼閉会日・採決(17日)

予算決算特別委員長が付託議案の審査結果報告を行い、採決の結果、すべて原案どおり可決されました。

また、議員提案で「議員活動の長期欠席などによる議員給与の減額を定めた条例を可決し、閉会しました。

一般質問

町政を問う

■質問事項一覧 >>>

◆原 秀男 議員・・・4 ページ

町の行財政改革について

- ① 税収の現状と見通し
- ② 職員数の経緯と今後の予定
- ③ 課の統廃合について

役場職員の居住地について

- ① 今迄の状況について
- ② 今後の方針について

◆佐藤 博 議員・・・5 ページ

小学校統合5周年

- ① 統合後の状況と今後について

企業誘致

- ① 計画について

28年度事業

- ① 目玉事業は
- ② 町史編さんについて
- ③ スマホ配布事業計画について

◆岩崎 正春 議員・・・6 ページ

観光開発について

- ① 重点道の駅と観光開発の目指す先はどのようなものか
- ② 国交省・観光庁メニュー※DMO 支援との関連は

起業創業支援について

- ① まちづくり施策、移住・定住施策と創業起業支援をどのように考えているか
- ② 小口融資の現状と改善は

職員の採用について

- ① 来年度の採用状況について

(傍聴者数 12 人)

※次ページからの各議員の質問と答弁は、紙面の都合上、内容を要約して掲載しています。会議録の詳細は、下仁田町議会のホームページでご覧になれます。

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の行財政全般（公共事務、団体委任事務、行政事務の一切を含む）にわたって、事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を執行者に求め、町が町民のための適切な町政運営を進めているかチェックするものです。

●行財政改革について

問 人口減少と 役場職員数について

答 住民サービスを低下させないため
これ以上減らせない



原 秀男 議員

議員 少子高齢化と人口減少が進んでいるが、

最近の町の税収は、

住民税務課長 平成22年の10億5千万円から下

降線で、平成26年には

9億円を切っている。

ずっと減少傾向にあり、今年度の決算見込みも減少している。

議員 大分下がってきている。町長はこの状況をどう受け止めているか。

町長 町税減収の大きな要因は、なんといつても働く人の減少と捉え

ている。高齢化に伴う納税義務者の減少と所得の減少と考えている。

議員 税収アップの方策は。

町長 下仁田町特有の観光、農産物をいままですらに活用をしたい。さらには地域林業の実態をいろいろな角度から提案し、林業産業の確保に向けた努力をしていくのが今の任務だと思っている。

議員 入るものが入らないなら、出るのを減らす、これが行政改革だ

と思うが、職員数の現状は。

町長 平成17年の行革審議会に沿うよう進めている。平成17年から今年まで25名減で現在114名である。

議員 人口減に対して職員数が減らない感じがするが。

町長 人口が減っても、国の事業あるいは、社会保障等々の要因が、非常に多岐にわたり仕



執務の様子

問 課の新設について

答 観光部門の充実を図りたい

議員 行革の成果として

今まで課の統廃合が行

われてきたが、新しい

課を設置する要因は。

町長 観光部門の充実のため人件費が増える

が、新課をつくる予定である。

議員 それでも必要か。

町長 町の発展的な考え方をすれば必要事項である。

問 町役場職員の居住地について

答 職員の3割強が町外

議員 町外に住んでいる

職員の状況は。

総務課長 この10年間、約3割強の職員が町外に住んでいる。

議員 人口減少が進む中、この状況をどう考えているか。

町長 下仁田町に住んで働いていただきたいという思いは強い。採用

事が増えている。住民サービスを低下させないためにこれ以上減らせない。現状で努力していく方針である。



● 小学校統合5周年

問 要望事項の実施状況は

答 各課連携して対応を進めている



佐藤 博 議員

議員 小学校が統合して5年、要望事項の実施状況は。

教育課長

- ① スクールバス乗降場所を校内にⅡ仲町の新道の開設待ち。
- ② 学校給食共同調理場を学校敷地内に移転Ⅱ28年度に小学校隣接地に建設予定。
- ③ 学校跡地の有効活用(仮称) 学校跡地活用検討協議会で検討、協議願いたい。Ⅱ町全体の協議会は設置されていない。
- ④ 自転車通学用の道路整備Ⅱ土木事務所に要望

署長宛てに要望書を提出。

議員 要望書を提出して終わるか。

教育課長 後追い作業はしていない。

議員 回答を得るまで努力を願う。教育部局からの要望(仮称) 学校跡地検討委員会の設置は。

町長 馬山小跡地の活用については、検討委員会を設置した。一般的な計画として企業の誘致が行われている。それぞれの分野において書を出。

⑤ 平成橋手前T字路に信号機の設置Ⅱ富岡警察



旧馬山小学校校庭

活用しており、引き続き各課の連携を持って対応を進めている。

議員 未実施の中に、小学校までのアクセス道路の整備がある。先般の説明会の図面にはアクセス道路がなかった。

町長 学校進入路は、県道から入るということで鋭意進行中である。

議員 地権者の気持ち、感情を大切になさっていただきたい。

問 スマホ配布事業について

答 予算には計上していない

議員 スマホ全戸配布は目玉事業か。

町長 目玉事業となるかはわからないが、予算には計上していない。

議員 自治体スマホ連絡協議会の発起人に名を連ねている。協議会の予算は。

町長 事業の目的、役員の名前、予算については、またお知らせさせていただきます。

町長 今ところは会費なしという形で進めている。

議員 監事に名前を連ねている。協議会の会費は。

町長 そうなると総会の会場費、砂防会館の借り上げ料はどなたが払ったのか。

町長 お話できないのが残念だ。

問 28年度の目玉事業は

答 本会議で提案したい

議員 28年度の目玉事業は。

町長 これから本会議で提案させていただきます。

議員 この場でご答弁をいただけないのか。

町長 本会議において提案をさせていただきます。

議員 ならば下仁田メール配信サービス

の詳細を総務課長に質問したい。

総務課長 「下仁田インフォメールによる配信サービス」は・・・(以降は広報4・5・6月号に掲載されたので省略)

議員 残念に思わず答弁してください。通告に不足も十分答弁いただける内容と思う。この後、アンケートの対応には細心の注意を払っていただきたい。産廃時代に金井町長は1万人の署名簿を山田建設に提出した。個人情報流出を思い出した。民生委員は特別職公務員で、守秘義務がある。お願いしております。

●観光開発について

問 重点道の駅と観光開発

答 佐久市との域内連携を深めたい



岩崎 正春 議員

議員 下仁田町と同時に重点道の駅となった「佐久みなみ」や軽井沢町との連携など域内連携が大事ではないか。

産業観光課長 佐久市農業祭への出店や下仁田町農業祭への招待、また山荘あらふねつつじ祭りとコスモス祭りの参加予定に加えて、4月19日大相撲佐久場所への協力要請などを機会に交流連携を深めたい。

議員 一般社団法人下仁田観光協会がDMO仮登録となった意義は。

●創業起業支援は

問 創業起業支援の中身は

答 相談件数3件/年予定

議員 まち・ひと・しごと総合戦略では企業誘致を年3件とあるが、どのような企業誘致を考えているか。

地域創生課長 戦略中では企業との相談件数を3件としている。小規模企業には空き家活用などと、雇用吸収力の

大きな地域密着型企业を立ち上げたい。また国のプロジェクト10000は、自治体が初期投資を行った場合、国が特別交付税の対象とする支援もある。

●職員の採用について

問 新年度の採用は何名か

答 28年度は職員4名、保健士1名

議員 町内より町外の応募者が多いらしいが、28年度応募者の内容は。

総務課長 9名応募があり、Uターンを含めて町内3名。

議員 2040年の人口ビジョンでは、町の人口予想が4500人を考えると5人必要なのか。

総務課長 下仁田町定員管理計画は平成28年から32年を作成している中で現状の116名となっている。

議員 地方創生や観光開発などで人手が必要なところに特化した職員を臨時的に採用してはどうか。また一人増やし、出を防ぐのは大変。法の保護もあるが、職員の皆様には深く思慮していただき、ぜひ町

内に住めるようなお願いをしていただけないか。

町長 観光に対する思い、職員に対する思い、重々伺って、今後良い方向へ検討していく。職員間でも、地方創生の原点はまずは人口減少の問題と話は大部分出ている。町民からもご意見を拝聴している。肝に銘じてそれらを生かしていきたい。



いってんべー祭会場にて



ラッピングトラックの荷台はステージにも使える

審議結果

3月定例会

○は賛成、×は反対、欠は欠席を表しています

議案番号	議案名	議員名	岡田邦敏	永井正之	木暮弘元	原秀男	岩崎正春	高瀬政信	佐藤博	千野榮治	島崎紘一	堀口博志	岡田武二	審議結果
1	専決処分の承認を求めることについて(平成27年度下仁田町一般会計補正予算(第5号))		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	承認
	下仁田町選挙管理委員及び補充員選挙について(選挙第1号)		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	
2	下仁田町固定資産評価審査委員会委員の選任について		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	同意
	人権擁護委員候補者の推薦について(諮問第1号)		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	同意
	人権擁護委員候補者の推薦について(諮問第2号)		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	同意
3	群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
4	下仁田町等行政不服審査会の共同設置について		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
5	下仁田町役場課設置条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
6	下仁田町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
7	下仁田町議会の議員の諸給与支給条例の一部を改正する条例		○	○	×	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
8	下仁田町長、副町長及び教育長の諸給与支給条例の一部を改正する条例		○	○	×	○	○	欠	×	○	○	○	○	可決
9	下仁田町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
10	下仁田町職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
11	下仁田町税条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
12	下仁田町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
13	下仁田町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
14	下仁田町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
15	下仁田町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
16	下仁田町中小企業経営安定資金融資条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
17	下仁田町職員の退職管理に関する条例		○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決

議案番号	議案名	議員名										審議結果	
		岡田邦敏	永井正之	木暮弘元	原秀男	岩崎正春	高瀬政信	佐藤博	千野榮治	島崎紘一	堀口博志		岡田武二
18	下仁田町等行政不服審査会委員の報酬等に関する条例	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
19	下仁田町行政不服審査法の規定による提出資料等の写し等の交付に係る手数料条例	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
20	下仁田町地方活力向上地域における固定資産税の課税の特例に関する条例	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
21	行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
22	下仁田町庁舎整備基金条例を廃止する条例	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
23	下仁田町過疎地域自立促進計画について	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
24	平成 26 年度町道 0109 号（下仁田～栗山）線道路改良工事請負契約の変更について	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
25	平成 26 年度町道 0104 号線（不通橋）橋台部補修工事請負契約の変更について	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
26	平成 27 年度下仁田町一般会計補正予算（第 6 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
27	平成 27 年度下仁田町国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
28	平成 27 年度下仁田町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
29	平成 27 年度下仁田町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
30	平成 27 年度下仁田町浄化槽整備事業特別会計補正予算（第 3 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
31	平成 27 年度下仁田町水道事業会計補正予算（第 2 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
32	平成 27 年度下仁田町ガス事業会計補正予算（第 3 号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
33	平成 28 年度下仁田町一般会計予算	○	○	×	○	○	欠	×	○	○	○	○	可決
34	平成 28 年度下仁田町国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
35	平成 28 年度下仁田町後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
36	平成 28 年度下仁田町介護保険特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
37	平成 28 年度下仁田町浄化槽整備事業特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
38	平成 28 年度下仁田町水道事業会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
39	平成 28 年度下仁田町ガス事業会計予算	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
40	下仁田町議会の議員の諸給与の特例に関する条例	○	○	○	○	○	欠	○	×	○	○	○	可決

※佐藤勇二議長を除く 11 人で採決を行います。

下仁田町議会の議員の諸給与の特例に関する条例（議員提案）

下仁田町議会への住民の信頼の確保を図るため、下仁田町議会議員が病気などで長期間にわたり議員活動ができない場合又は住民の信頼に反する行為をした場合における議員報酬や期末手当の支給割合を減額することを決め、さらに議員辞職勧告決議を受けた議員の報酬は議長が議会運営委員会の答申を得て報酬の支給割合を決めることができるとする条例を定めたもの。

〈条例のポイント〉

第3条（議員報酬の減額）

欠席期間	支給割合
90日を超え180日以下であるとき	100分の70
180日を超え365日以下であるとき	100分の50
365日を超えるとき	100分の20

第4条 議員が、下仁田町議会基本条例（平成27年下仁田町条例第34号）第3条に規定する議員の政治倫理に違反し、議員辞職等の勧告を受けたときの議員報酬の額は、当該議員の議員報酬の額に議長が決定した割合を乗じて得た額とする。

2 議長は、前項の規定による割合の決定に当たっては、議会運営委員会に諮問し、答申を得るものとする。

第5条（期末手当の減額）

欠席期間	支給割合
1月を超え2月以下であるとき	100分の70
2月を超え4月以下であるとき	100分の50
4月を超え6月末満であるとき	100分の30
6月以上であるとき	100分の10

討論

反対 第4条については、（辞職勧告）法的根拠がなく、いろいろな問題が生じるおそれがあると思われるため反対する。
賛成 議会基本条例第3条にもあるが、法を守り規範に基づき議会活動に努めなければならない。法に違反した場合は特例を設けるのが当然である。

採決結果 賛成多数により可決

予算決算特別委員会 （傍聴者数5人）

▼主な質疑

◆平成27年度下仁田町一般会計補正予算（第6号）

【歳入】

問 地域創生加速化交付金6623万円の充当先は。

答 企画調整費に430万円、介護予防・生活支援サービス事業1600万円、外郭団体負担金に356万円、外郭団体補助金300万円、こんにゃく手作り体験道場管理運営に150万円、「道の駅しもにた」再整備事業に3786万円の充当となっている。

【歳出】

問 電気自動車の活用について。

答 日産自動車から3年

問 無償で貸与され、健康課介護保険係が介護認定審査等で利用する予定。役場に受電ボックスを設置し夜間に充電を行う。

問 ハチ駆除補助金の平成27年度実績は何件か。

答 30件である。

問 林業共通事務費について。

答 森林林業の活性化を目的に林政連絡会議を平成27年7月に設立し、新たな有効活用として*CLTを調査・研究するため、岡山県真庭市へ視察した経費である。

◆平成28年度下仁田町一般会計予算

【歳入】

問 軽自動車税で滞納が続くと車検切れになるが、車検切れの状態

*CLT（クロス・ラミネイテッド・ティンバー）・・・
板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル。直交集成板



電気自動車貸与式にて

動く場合に事故等が心配される。督促・徴収方法はどのようにしているか。

答 月末に各地区の担当者で電話催告し、乗らない軽自動車については、廃車を勧めている。また、年3回の夜間滞納整理および全庁一斉滞納整理も行っている。その際にも話をし

ているが、車検切れについては把握できない。多い。

【歳出】

問 職員研修福利厚生の人間ドックについて、下仁田厚生病院で受診している職員は何人いるか。

答 3名から5名で例年推移している。以前も

指摘があったが、各病院に長年かかっているデータが蓄積されるといえる意見が多い。

問 地域おこし協力隊募集事業のアドバイザーの仕事内容は。

答 地域おこし協力隊としての経験者をアドバイザーとして招き、町で活躍する隊員の起業、就職、定任に対するアドバイスや支援をしてもらいたいと考えている。

問 ふるさと納税促進の5308万円の内訳は。

答 返礼品の費用として4000万円、ふるさと納税に係る封筒の印刷代等の費用が38万円、クレジットカード取扱手数料、ゆうちよ銀行手数料、寄付証明書郵送料、ワンストップ特例申請書の郵送代費用が190万、納税募集サイトの運営費用が1080万円となっている。

問 4000万円分は商店や農家に支払われ

るか。

答 多少のばらつきはあるが業者への支払いになる。

問 28年度の返礼品のメニューはどのように考えているか。

答 今年度取り扱ったものの他に、下仁田町に来てお金を使っていた部分を探している。新たな返礼品の募集も行っている。

問 すき焼き県として群馬県がPRしているが、今年度すき焼きが品薄となってしまう、来年度は何か対策は考えているか。

答 供給できるよう業者と協議したい。

問 企画費のまちづくり推進費782万円の内容は。

答 大きいものは定住促進奨励金で、1件25万円交付するもので325万円。その他、町並みを生かしての起業支援として空き家利用の起業家に対し100万円を限度に補助金を交付する事業。二地域居住として、平日

は都会で生活し週末に下仁田町で過ごすといったスタイルを推進し、空き家を利用しての改修費用補助100万円も見込んでいる。

また、空き家の定住利用として特別な理由がなくとも定住の要件の下で改修費用補助100万円を計上している。

問 本年度、肺がん検診を新たに導入するのはか。

答 県内未実施の市町村は5自治体。内容は、従来の胸部レントゲンに加え50歳以上でタバコ指数600以上の人に任意で喀痰検査を行う。

問 乳幼児対策で新しくなる不妊治療費助成と今までの実績は。

答 不妊治療と不育治療について助成を行う。特定不妊治療は個人負担の2分の1で上限100万円、一般不妊治療は、個人負担の2分の1で上限20万円、不育治療は個人負担の

2分の1で上限20万円と増額した。

平成16年度から助成事業を開始して、毎年1〜3件の申請を受け付けている。そのうち半数以上が妊娠に結びついている。

問 年金生活者等支援臨時福祉給付金支給事業について。

答 平成27年度の臨時福祉給付金の対象者で28年度中（昭和27年4月1日以前に生まれた人）65歳以上になる方が対象となる。

問 入学祝い金について。

答 平成28年度から開始される事業で小・中学校に入学する対象者の保護者に支給する。

問 この事業を始めた目的は。

答 子育て応援事業の一つで、結婚・出産・子育て（保育園の保育料無料化拡大）・小・中学校への入学時の義務教育まで、切れ目のない支援をするため。



予算決算特別委員会の様子

問 地域おこし協力隊事業について。

答 協力隊員は、2名で来年度は西牧地区を中心に活動予定。仕事の内容は、地域で困っている問題等を掘り起こしていただく。

問 福祉サービスについては、こんなサービスがあればいいなというニーズの把握をし、町来れば起業してもらうと考えると考えている。

問 ぐんま緑の県民基金事業の実施箇所は。

答 馬山バイパス、大東区上ノ原の伐採と平成26・27年度に森林整備を実施した箇所の植栽や管理である。

問 林道作業道総合整備事業の一般財源の基準は。

答 定額であり、行政改革で減額してきた。

問 小口資金融資対策について。

答 小口資金融資利子補

給金144万円、小口資金融資保証料補助112万円、中小企業経営安定資金融資保証料補助2000円である。

問 「道の駅」にも「た」再整備事業の1億4813万円の内訳は。

答 第1期の販売施設等建設工事費1億4040万円のうち過疎債1億1440万円、一般財源2600万円である。

第2期の群馬森林管理署下仁田森林事務所移転による設計委託233万円のうち森林整備加速化・林業再生推進交付金116万円、一般財源117万円である。

第2期の交差点改良、駐車場等設計業務委託540万円のうち社会資本整備交付金325万円、一般財源215万円である。

問 道路橋梁総務費、国・県道改良促進の内容は。

答 道路協会の日本・関東・群馬県・富岡支部

の会費および県道下仁田上野線、国道254号、県道小平下仁田線の各建設促進期成同盟会の負担金となっている。

問 期成同盟会では総会ありきになっているようだが、活動内容は。

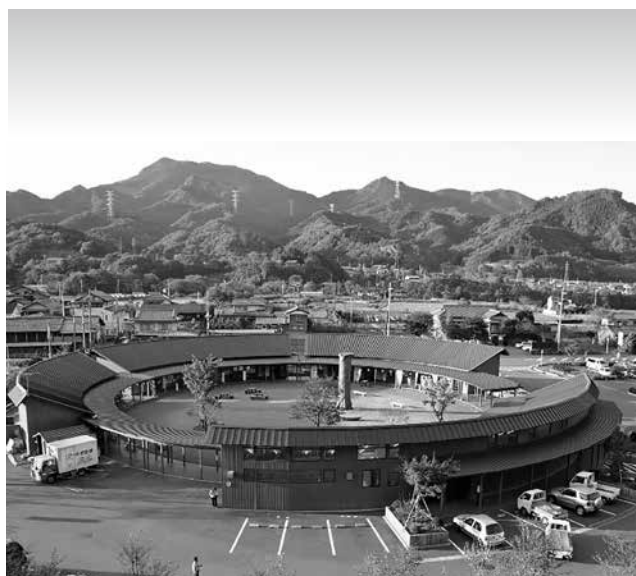
答 国道254号の期成同盟会では、要望活動として6団体の同盟会で、毎年、県知事・県議会議長に要望している。当町では、踏切や白山のカーブの改良、馬山から小坂へ抜けるバイパスの要望をしている。

問 教育振興費の国際交流教育について。

答 主に中学2年生を対象とした海外派遣事業の費用とALTの招致事業費である。

問 引率者を含めた海外派遣事業の内訳と派遣先および生徒の選考方法について。

答 平成28年度は、生徒12名分と引率者3名分の費用を計上している。一人当たり約40万



道の駅しもにた

円のうち、12名の生徒からは、約半分の20万円を負担していただいております。引率者の手当として他に一人約2万円余支出している。派遣先は、28年度もオーストラリアのブリスベン郊外を予定している。選考方法についてはくじ引きとしている。

問 歴史館費の積立金は。

答 1101万円の積立金は。

問 ふるさと下仁田応援寄附金500万円と荒

船風穴入場料600万円を含む1101万円を今後の荒船風穴整備のために、基金に積み立てている。

問 ジオパーク推進費の内容は。

答 下仁田町で開催するジオパーク関東大会開催に160万円、ジオサイトの整備事業に7702万円。新規に大学等と連携した域学連携推進事業によりジオサイトの科学的裏づけにも対応したい。

行政視察報告

総務常任委員会 〈空き家バンク制度と防災安全センター〉

総務常任委員会では、委員6名、随員2名で、2月22日、23日に山梨県山梨市の空き家活用としての「空き家バンク」制度および中央市の県立



山梨市役所にて「空き家バンク制度」の説明を受ける

防災安全センターへの行政視察を実施した。

▼空き家バンク制度

山梨市では、農村部の空き家情報を都市住民に提供し、景観、地域の活

動、防犯、安全性の観点から地域にとってマイナスイヤである空き家に市外から人呼び込むことで、人口増、地域の活性化、税増収につながる起死回生の策として平成18年9月に「空き家バンク」制度の運用を開始した。

特徴は、山梨県宅地建物取引業協会との提携による事業運用にある。物件の確保、紹介は行政が担当し、現地立会は行政、宅建協会と合同で行う。契約、登記は宅建協会が担当することとし、役割分担している。

自治体は物件の紹介までは行っても個々の契約に関与することはしない。当事者同士の交渉、契約であった実態から、空き家利用のトラブルの発生も多くあり、担当者が苦情処理に追われるケースが多いことがわかった。

この問題を解消するために、公平な見地で専門の知識を有する人の仲介が不可欠として、山梨県宅地建物取引業協会に相

談を持ちかけた。理解をいただいて協定を締結することができ、現在までこの運用方法で順調にきているという。

これまでの事業実績は、登録物件数が延べ159件であり、成約となった物件は売買件数32、賃貸件数47となっている。

▼防災安全センター

中央市では県立防災安全センターで災害への備え、災害遭遇時の対処についての視察研修を行った。県から指定管理者として山梨県消防協会が運営している施設で、団体、個人を問わず誰でも講義や訓練を受けることができる。

今回は、阪神淡路、新潟沖、東日本の震災時の現場実態から得た教訓に基づき日頃の防災準備や地震発生時の身の守り方、避難所での生活について講義を受けた。

地震発生時には、とにかく素早く身を守る行動をとること、緊急地震警報と同時に行動すること



防災センターの地震体験装置に乗る

が生存確率を格段に高めることとなる。火災では、一酸化炭素で一瞬にして命を失う事例が多いことや、噴火災害では時速300キロの速さで火山岩が降ってくることなど、日頃の生活では想像を絶する状態であること認識させられた。

このように、様々な防災知識を得たうえで震度

7の地震、停電下で煙にまかれた状況の体験をしたが、知識があっても実際に遭遇した場合には何もできないことをこの体験を通じて実感した。防災の意識を高める知識の普及も大切だが、同時に日頃の訓練がいかに大事か痛感した。

(委員長 原 秀男)

社会経済常任委員会

〈道の駅もてぎの事業運営
薪ボイラーを活用したうなぎ養殖〉

社会経済常任委員会

は、委員5名、議長、随

行職員2名で、2月9日、

10日に、栃木県茂木町の

「道の駅もてぎの事業運

営」および那珂川町の薪

ボイラーを活用したうな

ぎ養殖」について視察研

修を行った。

▼道の駅もてぎの事業運営

運営

茂木町の、道の駅もてぎは、新たな「もてぎ」の情報発信基地であり、具体的には地場産品のPR（紹介・展示）や販路の拡大および新商品の開発など、茂木町の産業振興の場として位置づけて

いる。

第3セクターにより株式会社もてぎ

プラザが管理運営を行っており、資本金5000万円、代表取締役は茂木町長である。

道の駅もてぎ

道の駅もてぎの役割として、道路ユーザーのための休憩所・案内所、地場産品の売場、雇用の場、住民の

憩いの場、観光拠点、防災拠点、研修・教育の場、*6次産業の場を掲げている。

道の駅もてぎの理念

は、第一に町民のため、第二に訪れる人々のため、第三に従業員のためであり、この理念により「地域に愛され・地域還元、安心・安全・驚き」をキャッチフレーズに社員が自信と誇りを持つことができています。

こうした活動が認められ、平成27年1月30日には、地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められ、国土交通大臣に全国モデル道の駅として選定された。

今後、道の駅もてぎの目指すべきところは、生産調整廃止に伴う米の有効活用として「洋菓子工房の整備」、ほだ木の生産から一括して「菌床しいたけ栽培所の拡大」、直売所出荷者の高齢化に伴う対応として「農場経営」、規格外野菜を活用した商品づくり「6次

産業の拡大」で、雇用100名、年商10億円を目指しているという。

▼薪ボイラーを活用したうなぎ養殖

那珂川町のうなぎ養殖場は、薪ボイラーの熱で水温管理を行ううなぎの養殖で実証実験に成功したことから、施設を整備し、本格的に稼働を始めた。課題は燃料費で、水を温めるボイラーの重油代は年間500万円以上

見込まれる。一方、町の面積の約6割は山林で、間伐材を使えば町の資源活用になるとの思いから、木材を燃やして熱源にしている。シラスうなぎからの養殖に取り組んでいるのは、県内で初めてで、養殖に適した水温28℃を保つのは、重油より間伐材等を燃料とする薪ボイラーの方が低コストである。

日に2回、社員が1立方メートルの薪をくべると薪を一度に入れすぎると不完全燃焼を起こすため、十分に温めてから

入れるなど工夫が必要だ。深夜はバックアップ用に重油のボイラーを使い、すべて重油を使う場合と比べ、光熱費は約半分に抑えられる。

初期導入経費は、建屋、配管およびボイラーの総額

約3500万円、うち薪ボイラーは1000万円弱、薪ボイラーの耐用年数は10年で、煤の掃除が必要になる。

事業実施している中、出てきた問題は、煙が着火から10分ぐらいの間に半径100m範囲におよぶこと、ストック用の薪を1年間乾燥させて置く場所が必要であること。ボイラーは農業用のため、30キロカロリーから50キロカロリーのため一定ではないことが揚げられる。

化石燃料は入れるだけで回り続けるが、薪は労力がかかる。でも、地元



薪ボイラーを活用したうなぎ養殖

の資源を使って安価に事業を展開できる。現在は、製材所から木材を提供していたが、今後は、個人の方からの買い取り制度に変更し、地域還元を考えている。

最後に、今回の視察では、道の駅もてぎの事業運営および薪ボイラーを活用したうなぎ養殖の先進地について調査した結果、今後の道の駅にも同様の拡張工事や荒船の湯の熱利用になるのではと、大いに参考になった。

（委員長 木暮弘元）

*6次産業・・・農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表す。

③ 下仁田町消防団



第一分団の皆さん

第一分団 分団長 茂木 芳博さん

私たちは下仁田町消防団第1分団は、大字下仁田地区の第1部と川井、吉崎、栗山地区の第2部で、分団長以下30名、消防ポンプ車2台で構成されています。2部ポンプ車には、山林火災等で活躍する小型の可搬ポンプも積載されています。

活動内容としては、火災発生時はもちろんの事、自然災害発生時や、行方不明者の搜索等も、消防署や警察と協力して行う事もあります。また、1カ月に1度程度、防火水槽や消火栓等消防水利の点検をする火防を行っています。昨年は、5年に1度行っている消火器の実演販売を実施しました。

たくさんの方の御協力、御参加を賜り誠に有難うございました。このような活動で皆様少しでも防災意識を高めていただけるよう努力しています。

AEDを使った救命救急講習会の受講で万が一の場面に遭遇した時に、住民の皆様のおかげになればと思っています。このような消防団ですが、第1分団も欠員が生じてしまっています。自分たちの町は自分たちで守る。という事を思い活動している私たちがぜひ消防団に興味を持っていただき、消防団に参加していただきたいと思っています。



もし火災が発生してしまった場合は、大切な人命や、家財を失ってしまう事もあります。火気の取り扱いには十分注意していただき、火災や災害のない平和な下仁田町である事を願っています。

議会だより・会議録をホームページでご覧下さい。

<http://www.town.shimonita.lg.jp/>

次の定例会は6月の予定です
議会傍聴をお待ちしています。
日程などのお問い合わせは

☎64-8810



編集室から

議会だより第73号をお届けします。

本号は、平成28年3月定例会について編集しました。

皆様方に出るだけ見やすく、読んでいただける紙面作りを心掛けておりますが、お気づきの点やご意見、ご

要望がありましたら、お知らせください。

広報発行特別委員会
委員長 永井正之
副委員長 岡田邦敏
委員 木暮弘元
原 秀男
岩崎正春
島崎紘一

編集／広報発行特別委員会
発行／下仁田町議会議員 佐藤 勇二